

新庁舎における市民利用施設検討委員会ワークショップがスタート

第1回ワークショップ開催

平成15年12月25日(木)クリスマスの夜

福島市民会館301号室にて、ワークショップが始まりました。

5人ずつの3グループに分かれて着席した委員の皆さんは、検討委員会での白熱した議論を受けて、ワークショップ開始直後は、やや緊張した面持ちでした。

しかし、自己紹介が始まると委員ひとり一人の話に頷くなど、徐々に全体の雰囲気も和んできました。



第1回ワークショップのテーマは

「～簡単なワークショップ体験をしてみよう～」

簡単なKJ法により、

「私の考える市民利用施設では、ができます。」を
ウィッシュポエムシート「思いカード」に記入し、各人
説明をしながら模造紙に一枚ずつ張り出しました。



私の考える市民利用施設で
は・・・ができます！



「思いカード」



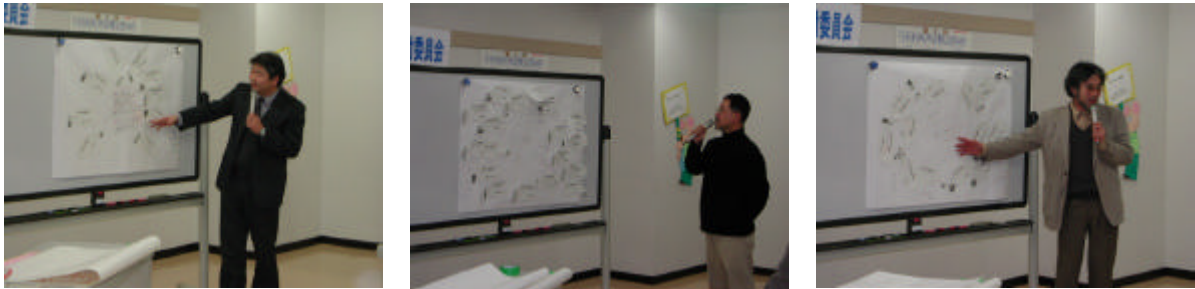
委員の皆さんが考えた新庁舎そして市民利用施設は、
子どもを連れたお母さんがくつろげるところであったり、
レストランでおいしい食事ができたり、
福島市の情報がいつでも簡単に手に入れることができたり、
24時間利用できるスペースであったりと、
夢がいっぱいの施設になりました。

各グループの代表が出来上がった第1回の成果品

「 **グループが考える市民利用施設は** **です**」を発表しました。

そんな中で、共通したコンセプトは、

「いつでも気軽に、安心して、参加して楽しめる」施設であり、
次世代に誇りを持って渡せる市民の共有財産であっても欲しいというものでした。



「みなさん堂々と、グループのまとめを発表されました。」

各グループの発表終了後、

アドバイザーの山口哲子先生（宇都宮文星短期大学教授）からは

「今日の皆さんの発表に共通している点は、「いつでも」、「多様な市民活動」に対応できる場所というところであり、次回は「誰もが」「いろんな人が」ということ、利用者の構成をいろんな視点で考えて欲しい。」とのアドバイスがありました。

山川充夫先生（福島大学経済学部教授）からは

「論客、そして、それをまとめる論客が現れ、『場』を共有することによって、新しいものが作り出されていくのだと思います。こうしたものを積み上げていくことによって、良い物が作り出されていくことを期待したいです。」とのコメントがありました。

委員の皆さんは市民利用施設に対する思いを共有し、第1回のワークショップを終了しました。